香川医療生活協同組合

第12号
（部内資料）

高松平和病院ニュース

〒760-8530　高松市栗林町1-4-1　TEL.087(833)8113(代表)　HPアドレス：http://www.t-heiwa.com/
発行責任者：高松平和病院 院長 蓮井宏樹　編集：広報委員会　発行年月日：2014年４月25日

第2回高松平和病院地域連携懇談会を開催しました

今か今かと待ち構えていた桜が次々と開き始めた３月27日、第２回高松平和病院地域連携懇談会がルポール讃岐で行われました。今回は当院の整形外科医療の特徴をよく知っていただき、更に顔の見えるつながりを強め広げていけるようなプログラムにしました。

冒頭、蓮井院長が団塊の世代が高齢期を迎え、日本全体の少子高齢化が急速に進んでおり、香川県も例外ではなく、要介護や寝たきりにつながる運動器の障害（ロコモティブ症候群）を予防したり治療していく整形外科の役割が大切であること、当院は手術療法と術後早期のリハビリを積極的に進めてきたことを挨拶で述べました。

次いで３人の整形外科医が講演しました。真鍋副院長（整形外科部長）が頚椎症、腰部脊柱管狭窄症、辷り症＋狭窄症、変形性膝関節症、変形性股関節症の手術療法の到達点と課題について述べました。脊椎手術では高松赤十字病院や県立中央病院と、手の手術では済生会病院と、骨軟部腫瘍では香川大学医学部附属病院と親密に連携を取り、肩では聖マルチン病院の田賀谷先生に週一日、当院の外来を担当していただいていると紹介しました。高松平和病院のリウマチ治療についてと題して、日本リウマチ財団登録医の中平医師は、関節リウマチの過去と現在及び当院での生物製剤使用の実際に触れ、抗リウマチ薬→メトトレキサート導入と増量→生物製剤開始と種類の増加に伴い、手術療法が激減し、薬物療法により寛解を目指せるようになったと説明しました。後期研修医の高橋医師は当院の症例を通して、最近の骨粗鬆症性骨折治療について述べました。講演後、「何歳まで手術するのか」と問われた真鍋部長は「認知症がなく、皮膚が綺麗で、元気な高齢者であれば、術前の検査結果を踏まえて年令に関係なく手術します。90才代でも可能です」と答えました。

今回の懇談会は、20施設・36名の方々にご出席いただきました。三条山下内科医院の院長先生に音頭を取っていただいた懇親会も大勢の方が参加され話が弾みました。有難うございました。次回の地域連携懇談会にもご参加いただきますよう宜しくお願い致します。

（副院長　病理科部長　佐藤　明）

第20回学術運動交流集会

高松平和病院が加盟する、香川民主医療機関連合会（略称香川民医連）の学術運動交流集会が、３月21日、香川県社会福祉総合センターで開催され、加盟する各施設から260名が参加し、日ごろの医療･介護活動の模様を発表し、交流しました。

今回は、当院小児科部長の平野明子医師が実行委員長を務め、４ヶ月前から準備をおこなって、「私たちの仕事は世界標準！ヘルスプロモーションをすすめよう」をテーマに行われました。

全国的に民医連では、WHOが呼びかけているHPH（Health Promoting Hospitals and Health services）への参加をすすめていて、HPHの理念･目的と取り組み内容が、私たちが日常的に行っている医療･介護や健康づくりの活動に完全に一致していることから、日々の仕事に確信を持って取り組もうと掲げられたテーマです。

このテーマを軸に、42個の演題が10の分散会で発表され、最後の全体会では、「平和学校の取り組み」「福島第一原発事故関連避難者の健康診断の取り組み」「オーストラリア　カリタス･クリスティーホスピス見学」の３個が指定演題として報告されました。

日ごろ会うことが出来ない他施設職員の発表を聞き、学び、交流して、新たな仕事に向かって英気を養うことが出来た集会でした。

（医師事務支援課　浦宗　宙）

SFM委員会の活動について

SFM委員会は、医療安全整備委員会の下で医療安全管理室と連携して病院内の各部署の安全対策を円滑に進めるために設置されています。

SFMはセーフティマネジメントの略で、各部署で発生するインシデントアクシデントの分析から安全対策を立案実践し、学習会の開催など安全活動を活性化する役割があります。

医療安全管理者と医師を始め各職場から選出された委員で構成され、定例会議は月１回で、この時職場への安全ラウンドも実施しています。職場ラウンドでは、チェックシートに沿って状況をチェックし、職場へ改善提案して対策を立ててもらい次回委員会で実践状況を確認します。

各職場は毎年、安全に関する活動テーマを持って活動し、３月にその成果を職員全体会議で発表し優秀職場は院長から表彰を受けます。2013年度は３病棟の「小児転落ゼロを目指す」が最優秀賞に輝きました。

緩和ケア専門研修を終えて

１年間の専門研修を終え、４月に高松平和病院へ帰任しました。

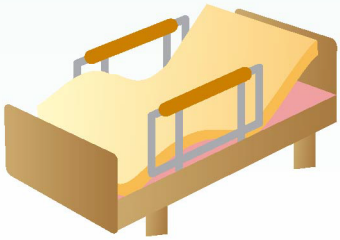
研修は、開設して20年の歴史を持つ神戸市の六甲病院緩和ケア病棟で行い、多くの疼痛や嘔気・嘔吐、呼吸苦、せん妄などの症状に対するマネジメントについて学びました。また、そもそも緩和ケアとは何か、緩和ケア医療をする上で大切にすることは何か、ということを改めて考える機会となりました。

がんによる身体や心など様々な辛さを和らげるための治療やケアをする上で大切なことは、教科書的に一律に当てはめるのではなく、それぞれ個々に患者さんや家族と情報共有しながら選択することです。言葉にするとありきたりですが、輸液の選択や薬の投与経路をどうするのか、など一つ一つ患者さんや家族と話をし、これまでの生き方やその患者さんが大切にしたいこと（例えば、最期までトイレは自分で行きたいなど）を尊重し、納得した上で医療を選択してくことが、その患者さんらしく過ごすことや生活を豊かにする支えとなります。

緩和ケア病棟は癌の終末期を過ごす方が多く「死ぬための場所」というイメージがまだまだありますが、「生きることを支える場所」であるということを学びました。

研修で学んだ知識を生かし、当院の緩和ケア病棟で過ごせてよかった、と言っていただける患者さんやその家族の方を増やしていきたいです。

（緩和ケア科
中島　綾花）



緩和ケア病棟におけるカンファレンス

当院緩和ケア病棟では毎日、患者様のそれぞれの状態に応じたカンファレンスを病棟スタッフである医師・看護師・理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカーと共に行っています。

１人の患者様に対して多職種でカンファレンスを行うことで、多方面からの視点で得た情報をもとに共有しその場でケアや治療の方法性を定めニーズや個別性に合った専門的ケアが提供できるようになります。

患者様の言葉から始まり、患者様・御家族を含めたチームでケアの提供が行えるように、そして当病棟理念である“その人らしく生きていけるように”日々関わらせて頂いています。

新入職員が入職しました！

香川医療生協に平成26年度の新入職員が入職しました。

当院には薬剤師、看護師、ＳＷ、セラピスト、事務等合わせて21名が勤務します。配属先で一日も早く戦力として活躍できるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

職場紹介

放射線科

放射線科は、男性技師５名･女性技師３名･事務員１名で業務を行っています。

放射線科には肺がんなどの早期発見に有効な16列ＣＴ装置、ＭＲ装置、血管撮影装置、５月に更新し胃健診･整形関係の撮影を行う最新のＴＶ透視装置、女性技師が担当している乳房撮影装置があります。

私達は、みなさんに安心して放射線検査を受けていただけるよう日々努力をしています。

最後に放射線の専門家として、原発･医療被ばくに関してのご質問などがありましたら、ご遠慮なく放射線科までお問い合わせください。

（放射線科　坂下繁則）